



## 「アイヌ人物誌」に観る、武四郎の人となりと石水との関係

石水というのは「がいなもん」に出てくる川喜田久太夫(14代)。その石水と平松樂齋の塾で3年間一緒に通った武四郎が入塾したのは1月だとすれば、満11歳、今の小学6年生。その時、石水の誕生日が判らないが、4歳年下だから、満7歳、今の小学1年生。その二人が生涯の友となったのは、何故？私にとっては、大きな謎だった。同級生だったら生涯の友となるのも無いこともない。それでも、余程のことがないと、そんなに長く続かない。

会員 高橋 雅士

武四郎の自伝、満12歳から13歳の時、「川喜田氏に滞留す」の一行。何もわからない。「滞留す」は一泊二日ではなく、何日か寝泊まりしたことになる。でも、何も書かれていない。



誕生地前で

石水は豪商の一人息子。江戸時代は「土農工商」の身分制度の最下位。しかも、石水の晩年の写真を見ると、おでこが出ている。

私の仮説「石水は平松塾ではいじめられっ子であった」そのいじめられっ子を守ったのが武四郎であった。身体は小さくとも腕力は強かったと考えると、その後が理解できる。武四郎は「いじめ」を見逃せなかった。

「アイヌ人物誌」を書いた動機に繋がる。いじめ、不正に対する武四郎の怒り、許せない思い。

そう考えると、何故、石水の父、政安が武四郎を滞留させたのかが理解できる。感謝。政安は、武四郎の思いを知っていた。川喜田家の知的財産は膨大である。史書、小説、旅行書、浮世絵、古物もたくさんある。

私は、武四郎の旅に対する想いに火を点けたのは、石水の父政安だと感じている。そしてスポンサーとなった。武四郎の初めての本「西海雑誌」の原本は石水博物館にある。政安が本にしたと確信した。石水にとって武四郎は兄だった。(真の)兄となれば石水が亡くなるまで関係が続いたのも理解できる。

石水の妻、政子(竹川竹斎の実妹)も、ずっと武四郎を慕っていた。石水の孫、半泥子もずっと祖母政子から聞かされていた。そんな意味でも「がいなもん」の最後に9歳の半泥子が出場していたのは、武四郎ファン、半泥子ファンにとっても感動であった。

さて、私は、心理学が専門で歴史家としては「どしろと」である。武四郎の書いた本を持ってはいるが読んではいない。武四郎についての本は読んで「武四郎講座」は、ほとんど欠かさず、聴いてきた。それがようやく武四郎の書いた「アイヌ人物誌」(青土社)を読み終えた。この文章を書くために、苦勞して読み終えたのである。実は1981年の農山漁村文化協会から出版された本は持っていた。読み出したが、辛くなって途中で読めなくなってしまった。



謹賀新年

役員一同

新年おめでとう！！  
今年も応援してね！



番人が綺麗な人妻に恋し、その夫を遠方の漁場に行かせ、その人妻をレイプする話がところどころに出てくる。親子愛、夫婦愛等、同じ人間なんだという話が多いが、やはり、酷い応対、性暴力の話が、私の心に突き刺さる。そして武四郎の不正に対する怒りが伝わってくる。武四郎は根っからの人道主義者だと思う。そんな人は昔からいたのだとホッとする。弱い立場の人を差別したり、いじめたりするのは、他人の苦しみや痛みを感じられない人である。特に戦争や貧困の中では、より悲惨なことになる。武四郎の生きた幕末から明治にも大変な時代だった。そんな時代であって「近代蝦夷人物誌」を書いて不正を告白した武四郎は凄と思う。“もっとも”現代でもこんな告白をしたら命を狙われたかもしれない。

ひとつ付け加えたい、“古物収集”他、物を集める人は心寂しい人である。寂しさや心の隙間を物や話で埋めようとするのである。しかし、感じていることが大切である。感じられない人は欲望のままに奪い、満足させようとする。「貧しさは、与えることの喜びを奪ってしまう。」武四郎は心豊かな人だった。

## 松浦武四郎記念館友の会発足 10 周年記念

### 「武四郎の足跡を偲ぶ」(東京編) 報告

平成30年は、武四郎生誕200年、北海道命名150年という大きな区切りの年ですが、友の会としても発足して丸10年となります。そこで武四郎に関わる地域として東京への一泊二日の旅の計画が提案されました。

今回の大きな目的は、染井霊園に葬られている武四郎さんのお墓参り、晩年に過ごした一畳敷きが現存する国際基督教大学、唯一現存する武四郎の写真や午睡図に描かれている大首飾りを所蔵している静嘉堂文庫、武四郎の住居跡などへの見学でした。また、松阪の豪商のお店(国分、三越、小津商店等)がある日本橋界隈と三重テラスも見ることでした。

この旅行は11月7日～8日(一泊二日)に実施されました。旅の日の前後は雨でしたが、旅行中は絶好の日和となり、充実した旅となりました

☆一畳敷きについてはICUに現存するのですが、その精巧に造られたものが9月に完成し、同学構内の湯浅八郎記念館に展示されていること。

☆静嘉堂文庫では大首飾りは普段公開されないのですが、私どもの行く日には公開されていること。

松阪市では首飾りのレプリカが10月に完成披露された。

☆武四郎さんの東京の住居跡として、東京都千代田区が練成公園内に6月に看板を建てられた。など、旅の目的の殆どを期待以上に観ることができました。また、事故も無く無事に終わられたことはお世話いただいた訪問先や、参加された方のご協力のお蔭です。有難く、お礼申し上げます。

### 市政バスツアー実施報告

12月14日に松阪市内の施設を巡り学ぶ恒例の研修バスツアーを21名の参加で実施しました。このバスツアーは松阪市の施設の内容を理解して頂くとともに市政への関心を持っていただく為、松阪市役所の協力を得て実施しているものです。参加された田中教子さんに感想文を頂きました。



武四郎さんのお墓を囲んで記念撮影



住居跡の説明板を囲んで

## 市政バスツアーに参加して

会員 田中教子

久しぶりの市政バスツアーに参加させて頂き、楽しい時間を過ごすことができました。

さて、最初の見学先の歴史民俗資料館は、その佇まい自体が歴史の重みを感じさせるもので、明治44年に図書館として建てられ築108年ということです。その内容は、開館40周年記念特別企画「松坂城」。蒲生氏郷が城を築き430年、その後の変遷を多くの文献資料の展示で辿ります。又、近年の写真もあり、盛り沢山の見応えのある展示で、川口朋史館長の解説がその魅力を増すものとなりました。



歴史民俗資料館

次の見学は「みえこどもの城」で、ここには息子が小さい時に何度か行きましたが、もう25年前の事。すっかり変わっていましたが、子ども達の為の催し等数多く、楽しい所になっていました。

最後の見学先「小津安二郎青春館」には初めての入館で、有名な映画監督が大正初期に松阪の地で過ごした子供の頃の様子等々、興味深く、知らなかったことばかり。館内はタイムスリップしたような別世界でした。お世話していただいた皆様有難うございました。



みえこどもの城



小津安二郎青春館

## 松浦武四郎生誕200年記念事業で「大台ヶ原」へ

武四郎の足跡を訪ねる事業の第三弾として、晩年に3回登った大台ヶ原へのバスハイクを計画。

第一弾の大杉谷に引き続き担当する事になり、参加者が楽しみ研修出来る事に心掛けました。時期は10月29日(月)参加者25名で、松浦武四郎記念館を7時に出発して、中型バスで4時間かけて大台ヶ原へ。途中、道の駅(杉の湯)からは武四郎が大台ヶ原へ登った時に、サポートされた岩本弥一郎さんの末裔である岩本泉治さんに乗車してもらい武四郎が登った大台ヶ原について、実感の在る詳細な話を聞かせて頂き、参加者は大感激。

「大台ヶ原」到着前での車窓からの眺めは紅葉で実に美しく参加者全員が外の景色に見とれていました。ビジターセンター前駐車場へ到着すると、青空でハイキング日和。日出ヶ岳では弁当を食べながらの眺めは天候も良く、見晴らしも最高であり、正木峠での周辺の景色は、この場所で見られない古木(武四郎が登ったころは、この付近は森林)でした。



日出ヶ岳山頂で集合写真

牛石ヶ原では、武四郎が数十名で護摩供養をされた場所で石標の確認とガイドをお願いした

岩本泉治さんから分かりやすい説明に参加者たちは「来て良かった。機会があればまた呼んで！」  
と言われました。武四郎の大台三登は、開山・開路のためであるといえる。(飯田記)

## 蝦夷ヤマザクラの育成について講義と研修

11月16日(金)に樹木医の方々が記念館を訪れ、エゾヤマザクラの育成・管理についてお教え頂きました。全国(北海道、岡山、東京、愛媛、三重)から樹木医の方々17名が来られて、講習を受けました。

また、樹木医代表の鈴木順策氏からエゾヤマザクラの性質について講話をお聞きしました。更に現地では、特に根付近の管理が大切で、土の状態や根の深さなど具体的に指導して頂きました。紙面をお借りして御礼申し上げます。

今後のエゾヤマザクラの育成に大変参考になりました。今春もきっと綺麗な桜が見れるでしょう!!



樹木医代表の鈴木順策氏



根周辺についての指導

## 【記念館よりのお知らせ】

### ☆武四郎講座

- |          |                  |          |
|----------|------------------|----------|
| 2月10日(日) | テーマ：近代初期の松浦武四郎   | 講師 小玉道明氏 |
| 3月10日(日) | テーマ：鹿角日誌や壺の碑考の予定 | 講師 佐藤貞夫氏 |
| 4月14日(日) | テーマ：未定           | 講師 未定    |

### ☆展示のご案内

- ◆錦絵の世界 ～1月14(月)まで 武四郎の実家で集められた錦絵を展示します。
- ◆武四郎の謎 1月16日(水)～3月17日(日)まで  
皆さんからお寄せいただいた武四郎に関する質問や疑問にお答えします。
- ◆武四郎の詩歌 3月19日(火)～5月19日(日)まで 武四郎が詠んだ数多くの和歌の一部を紹介します。

### ☆第24回 武四郎まつり 平成最後、武四郎生誕200年エピローグ

日時 平成31年2月24日(日) 午前10時～午後3時30分

主な内容 アイヌ古式舞踊(札幌大学ウレシパクラブのみなさん)

三雲中学校吹奏楽部演奏、三雲中学校踊り隊、小野江小学校発表会、  
河治和香&室井琴梅トークショー、劇団ドラマシティの劇 など

### ☆武四郎まつりイベント(「アイヌ文化体験交流会」)

日時 平成31年2月23日(土) 14:30～16:20

会場 みえこどもの城(2階 舞台スペース) 松阪市立野 1291

内容 アイヌ語のカルタやアイヌ民族の踊りなど、ウレシパクラブのみなさんとアイヌ文化を楽しく体験しませんか?

## 【友の会よりのお知らせ】

☆武四郎まつりのお手伝い募集・・・2月24日に、書籍の販売や記念館・誕生地・真覚寺での案内・説明等のお手伝いいただける方を募集します。記念館又は役員に申し出てください。また、まつりには多くの皆様の参加をお願いします。

☆会員交流懇談会を2月11日(日)武四郎講座の後に開催します。  
多くの皆様の出席と、提案をお願いします。